

「角田山からヒマラヤまで」「困難で創造的な
アルパインクライミングに挑戦する」を目標に
20代から70代まで26人が活動



谷川岳西黒尾根



劔岳小窓尾根

1995年4月、「新潟でアルパインクライミングの会を」「厳しい冬壁に挑戦を」と佐藤賢さん(チョモランマ登攀者、山岳ガイド)、竹内和比古(2004年〜2020年まで会長)、Sさん、Iさんと熱く語り合い、4人で新潟クライミングクラブ(NCC)を結成し、1996年7月に労山に加盟しました。

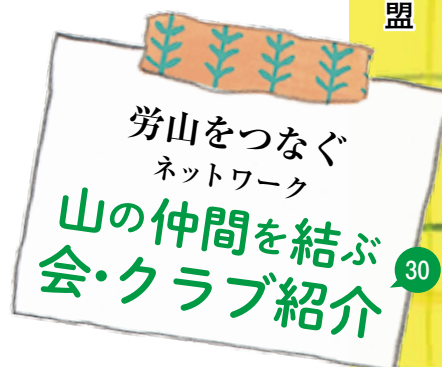
最初は7人程度でしたが、新潟大学の安藤勸氏(現札幌登攀クラブ)をはじめ、新潟大学山岳部や探検部員が入会する中で若返りました。

1995年〜2005年頃の活動

無雪期の登攀は、谷川岳一ノ倉沢の南稜、中央稜、変形チムニー、ダイレクトカンテ、雲稜

第一、第三スラブ等や幽ノ沢の各ルート等。明星山では左岩稜、左フェース、フリースピリッツ、クイーンズウエイ、マニフェスト等。劔岳チンネや源次郎尾根中谷ルート、穂高屏風岩も登攀しました。

積雪期の登攀や縦走は、5月の劔岳チンネ中央チムニー、赤谷山〜北方稜線、劔岳小窓尾根、西穂高岳〜奥穂高岳縦走、谷川岳一ノ倉沢の南稜、一ノ沢右壁左方ルンゼ、滝沢リッジ、幽ノ沢左方ルンゼ。明神岳東稜、八ヶ岳大同心雲稜、槍ヶ岳登頂等を成功させてきました。



30



小川山



秋山郷布岩



蔵王仙人沢

海外登山は、佐藤賢氏が1998年のチョモランマ登頂に続き、ローツェ、K2に挑戦。飯塚公知氏（新潟大学）が2003年にG2登頂。矢部（旧姓）千鶴子氏が2004年にチュール南東稜登頂など海外登山にも力を注いできました。

2006年～2015年頃の活動

アルパインクライミングは、常に一人一人に「体力、技術、精神力」が求められますが、様々な理由で有力会員が退会していき、会は厳しい状態に置かれました。「NCCももはやダメか？解散か？」等激論が交わされる中、2004年に石附（現副

会長）が入会し、NCCはなんとか継続されました。石附は夏の谷川岳登攀や5月の剣岳縦走、アイスクライミング等に力を発揮しました。

2016年～現在までの活動

山宮（現会長）が入会した2016年6月の時は8人しかいなかった会員もHPをマメに更新することや、インドアやゲレンデでの声掛けによる勧誘等で年々入会者を増やし、今では26人（男性16人・女性10人）と再び活気を帯びてきています。

現在の会の活動としては年1回の総会、月1回の例会、月1回程度の会山行の他に各自が個人山行を行っています。最近ではフリー志向の会員が多いですが、アルパイン、沢登り、アイス、山スキーも行っています。直近の会山行では2021年10月に明星山P6南壁へ11人でアルパインクライミングに行ってきました。

※山行の詳細については新潟クライミングクラブのHPを参照してください。
<https://nigataclimbingclub.wordpress.com/>

今後について

クライミングはフリー、アルパインを問わず常に危険が隣り合わせにあり100%絶対安全と言えるものが世の中には無いという事は十分承知しています。ですが、エイトノットを綺麗に結ぶことや、登攀前にパートナーチェックを確実に行うなど誰でも100%確実にできることもあります。そういった100%確実にできることをひとつずつ積み重ねて事故やケガが0に近づくよう努力していきたいと思っています。また、会の講習会でもそういったことを意識させるよう指導していきたいと考えています。

これからも「クライミング面白い、楽しい」の原点に返って活動をしていきたいと思っています。

（竹内和比古、山宮秀樹／新潟クライミングクラブ）